

令和 8 年度第 1 回西淀川区区政会議

1 開催日時：令和 8 年 6 月 23 日（火）午後 6 時 30 分～午後 8 時 41 分

2 開催場所：西淀川区役所 5 階 大会議室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50 音順）

岩本、岡本、小久保、河野、巽、中嶋、中山、西垣、平井、藤木、三宅、目崎、
矢口、山本

（事務局：西淀川区役所）

松田区長、楯川副区長、吉井総務課長、横内区政企画課長、澤田地域支援課長、
井上防災安全課長、奥野窓口サービス課長、松井保健福祉課長、
山城生活支援担当課長、小川こども福祉担当課長、永石保健主幹

（市会議員）

佐々木哲夫市会議員 清水こう市会議員

4 議題

（1）令和 7 年度西淀川区運営方針の自己評価

（2）西淀川区版すかいプロジェクト（働く・貯筋・歩く）の紹介

（3）グループ討議「貯筋」・「歩く」に関して

（4）その他

5 議事内容

○藤木議長

それでは、ただいまから令和 8 年度第 1 回区政会議を開催させていただきます。

事務局である区役所から、本日の議事進行について説明のほうをお願いします。

○横内課長

皆様、遅い時間にご参集賜りましてありがとうございます。私は西淀川区役所区政

企画課長の横内でございます。本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、現時点で14名の参加があり、定員21名の過半数を超えていることから会議が成立していることを確認いたします。

次に、議事進行についてですが、議題は「令和7年度西淀川区運営方針の自己評価」、「西淀川区版すかいプロジェクト（働く・貯筋・歩く）の紹介」、グループ討議としまして、「貯筋」・「歩く」に関して行っていただきます。「その他」としまして、次回の区政会議の日程などをお伝えさせていただきます。

続きまして、配付資料の確認を行います。配付資料としまして、まず表に次第、あと配席表・委員名簿、それから資料1としまして「令和7年度西淀川区運営方針」、資料2としまして「西淀川区版“すかい”プロジェクト始動！」と題した資料でございます。続きまして、資料3としまして「“すかい”プロジェクト始動！」、資料4としまして「歩く編」というふうに資料を付けております。それから資料5としまして「グループ討議」と書かれた1枚物のレジュメ、資料6としまして「ワークシート」、資料7としまして、もう一つ「ワークシート」を付けております。

以上、もし不足がありましたらお持ちいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、区政会議の実施状況につきましては、ホームページや広報紙などで報告いたします。様子がより伝わりますように写真を掲載いたしますので、会議中写真を撮らせていただきます。また、会議の様子を西淀川区役所YouTubeチャンネルでライブ配信しております。

それから、今年度の委員としまして、社会福祉協議会の加藤事務局長に代わりまして、巽俊朗氏をご就任されておりますのでご紹介させていただきます。

○巽委員

西淀川区社協事務局長を4月1日付で拝命しました巽でございます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

○横内課長

ありがとうございます。

以上、どうぞよろしくお願いいたします。

○藤木議長

議事に先立ち、区長のご挨拶をお願いします。

○松田区長

皆様こんばんは。何かとお忙しい中、またお疲れのところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

今日は昨年度の振り返りに加えて、先ほど話がありました「すかいプロジェクト」に基づく様々な取組、「働く・歩く・貯筋」というようなキーワードでいろいろ取り組んでいるわけですが、特に「貯筋」に関しましては「貯筋通帳」というツールを使って、たくさんの方にお集まりいただきまして、今いろいろと取組をしているところでございます。これも一過性に終わってはいけないわけであって、継続的にたくさんの方がそこに集って初めて事が次に進むということで、それは何かと言ったら、やっぱりその中で新たなコミュニティが、シニア同士の中でのコミュニティが生まれる。それが今後の西淀川の様々な課題、介護予防・健康寿命の延伸ですとか1人暮らしの方の見守りですとか、お互いに共助の精神を持って、何となく皆様が仲よくコミュニティの中で見守っていくような、そういう社会ができればなというところなのですが、今日はその前段の、どうやってまず皆さんに参加していただけるのかというような部分をご議論いただいて、ご意見を頂戴しながら区政に反映していきたいというふうに思っております。

遅い時間帯で恐縮でございますけれども、ご議論のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○藤木議長

ありがとうございました。

それでは、議題に進んでいきます。事務局から説明をお願いします。

○横内課長

ありがとうございます。

それでは事務局より説明させていただきます。

まずは、資料1「令和7年度西淀川区運営方針」をご覧ください。

令和7年度西淀川区運営方針につきましては、目標としまして「活気があり、笑顔にあふれ、常に進化するまち」・「高い防災力を備え、さまざまな文化でにぎわう西淀川」を目指しまして、令和7年度の基本的な考え方というところで5つの柱で取り組んでまいりました。「地域コミュニティの活性化」「健康で安心・安全な地域づくり」「未来を担う人材の育成」「魅力と活力あふれるまちづくり」「DXの推進による市民QoL（生活の質）の向上」。

まず、経営課題1としまして「地域コミュニティの活性化」についての振り返りをさせていただきますと思います。

まず「課題認識」としまして、災害発生時の助け合い、子ども・高齢者の見守りなど、地域の防災・防犯対策においては、地域を基盤とした人と人とのつながりが非常に重要であると認識しております。西淀川区の町会加入率は令和5年度調査において65.4%ですが、大阪市の平均より高いものの、平成31年調査と比べ7.9ポイント減と低下傾向が続いております。また製造業の事業数も減少傾向にあるという状況でございます。

「主な戦略」としまして、新たに開発される集合住宅への町会加入に向けた働きかけ、既存の住宅・戸建て住宅への働きかけ、町会加入の申込がオンラインでできる環境の整備、「ものづくりまつり」や「区内企業と日本語学校との意見交換会」の開催により製造業の操業環境を整備するという取組を進めてまいります。

「町会加入率のアウトカム」としまして、町会加入率は65.4%以上を目指しました。また、町会加入促進の取組が促進されていると感じる連合町会長の割合を8割以上、

区内企業等のネットワークに参画する企業は100社以上ということで目標設定しましたが、結果としまして町会の加入率でございますが、令和7年度の国勢調査の速報値で53.2%と目標については未達成ということになってしまいました。また、町会加入促進への取組が促進されていると感じる連合町会長の割合としては50%ということで、この2つにつきましては目標が未達成という結果に終わっております。また、参画する企業数は105社、前年度実績は124社ということで、こちらにつきましては目標である100社を達成したということで説明させていただいております。

続きまして、経営課題2「健康で安心・安全な地域づくり」というところでございます。

「課題認識」としまして、「防災」につきましては、地域の防災・減災を実現していく上で自主防災組織の訓練、地域コミュニティの中で助け合いを推進していくということが重要である。多様性配慮の視点を考慮することと、防災の新たな担い手をつくる必要がある。高齢者をはじめ避難行動要支援者の対策を講じる必要がある。

「防犯」につきましては、区民一人ひとりが交通安全や防犯に対する意識を高く持ち、交通事故や犯罪が発生しないよう注意を促し行動する必要がある。令和5年度の街頭犯罪発生件数は712件、交通事故発生件数は240件、また交通弱者である子どもや高齢者が交通事故に遭わないように対策をする。特殊詐欺の被害者になりやすい高齢者が手口や対策を知り、特殊詐欺に備えることが重要である。

また、「健康」のところでございますが、丸の4つ目でございます。健康寿命を延伸するためには幼少期より良い生活習慣を獲得し、青壮年期以降も自身の健康を意識し、それぞれのステージに応じた生活習慣、特定健診・がん検診を定期的に受診する。

「福祉」の項目でございますが、丸2つ目、福祉課題が複雑化・多様化・深刻化する中で、相談支援機能・地域・行政が一体となった総合的な相談支援体制の充実が求められている。

このような課題認識の中、「防災」としましては、丸2つ目でございますが、防災

リーダーなど人材育成の普及、防災マップを多言語化、外国人を含めて災害時に必要な情報を発信する。また、避難行動要支援者個別避難計画の作成を推進する。あと「防犯」におきましては、犯罪の発生状況の傾向を踏まえた防犯活動を推進し、「健康」につきましては、丸3つ目でございます。特定健診やがん検診の受診勧奨を強化する。「福祉」部分につきましては、「西淀川あい♡あいプラン」の具体的な取組を進めていく。こういった戦略を立ててやってまいりました。

次のページでございます。

「アウトカム指標」としまして、防災教育プログラムを令和7年度まで全小中学校で実施し、その後も継続する。優先度の高い要支援者で希望する方の個別避難計画を令和8年度までに完成させる。

「アウトカム」としまして、街頭犯罪の発生件数を660件以下、交通事故発生件数を220件以下、それから各担当におけるイベント等における連携や協力関係である企業・団体の数を令和6年度より増加させる。地域福祉計画の「あい♡あいプラン」の取組である「ちょこっと♡助っ人ポイント制度」の登録者数を増やすというような目標を立てました。

結果的に「アウトカム」ですが、「防災教育プログラム」につきましては13校、個別避難計画作成は99.8%、いずれも前年度実績に比べ増えているということで目標達成としております。「街頭犯罪の発生件数」でございますが、あいにく800件ということで、こちらについては未達成。あと担当内における各事業やイベント等において協力連携企業の数が令和6年度より増加させるということで、こちらは44団体ということで達成。交通事故発生件数が219件、こちらも達成。「ちょこっと♡助っ人ポイント制度登録者数」は71名、こちらも達成ということで認識しております。

続きまして、「未来を担う人材の育成」というところでございます。

こちらは「課題認識」としまして、丸2つ目でございます。子どもたちがそれぞれのライフステージに応じ、いきいきと育ち、自分らしく活躍できる環境を整備してい

く。

「主な戦略」としまして、丸2つ目でございますが、「にしよどこそだてほっとえーる」というLINEと子ども向けのWebページをつくったのですけれども、そちらの総ユーザー数を増やしていく。多言語化を図っている子育てマップの案内、外国籍住民が気軽に交流できる場を支援する。

「アウトカム」としましては、子育て応援サイト「にしよどこそだてほっとえーる」の総ユーザー数が未就学の人口の47%以上、こちらにつきましては未就学人口の43.5%の方がアクセスしていただいていたのですけれども、前年度実績には及ばずということで未達成と認識しております。

続きまして、「魅力と活力あふれるまちづくり」でございます。

大野川緑陰道路のクリーン活動の参加者数、「環境にやさしいまち」というイメージを一層強化させていく、区の抱える多様化・複雑化する地域課題の解決とまちの魅力向上。

これらの課題認識の下、「主な戦略」としまして、環境美化活動に係るイベントの報告を通じた情報発信、啓発を行う。企業・教育機関等との連携により官民共創を推進する。

「アウトカム」としましては、大野川緑陰道路のクリーン活動参加者数を前年度より2割増やす、企業との共創事業というのを10件以上ということでやっておりました。

結果、大野川緑陰道路の活動参加者数ですが316名、前年度に及ばず、未達成ということになりました。企業との共創実績は26件ということで達成ということで考えております。

最後になりましたが、「DXの推進による市民QoL（生活の質）向上」、こちらは少子高齢化の進行、外国人住民の増加などを踏まえて利便性を向上する。便利で簡単に行える各種証明書のコンビニ交付率というのを上げていくというのを課題認識としております。

「主な戦略」としましては、SNSなどの多様化した情報発信を行い、デジタルデバインドといいまして情報格差の解消に向けた取組を図る。コンビニ交付ができる機械を区役所に置いて、やさしい日本語による広報をしてコンビニ交付の普及促進を図る。

「指標」としましては、LINEアカウントの友だち登録数を1万人ということで目標にしております。各種証明書のコンビニ交付率は52.8%。

「結果」でございますが、区役所のLINEアカウントの登録者数が令和7年度末で9,215名、令和6年度末で8,328名ということで実は増えていっているのですが、目標である1万人に及ばずということで未達です。各種証明書のコンビニ交付率は53.7%で達成したと認識しております。

これらの5つの項目を「自己評価」ということで、昨年度の令和7年度は「官民共創の推進・SDGsの達成の推進」を土台にこれら5つの重点目標に取り組みました。具体的には、「防災分野」では学校での防災教育を展開し、要支援者の個別避難計画の作成、「福祉分野」では「助っ人♡ポイント制度」の登録者数を増やす、「DX分野」ではコンビニ交付率の向上、これらでは成果が表れましたが、一方で、環境美化（クリーン活動）・地域コミュニティの活性化（町会加入率）・子育て情報の発信（ほっとえーる）の利用率、SNSの登録者数などは未達がありまして、区役所としては、参加・参画、サービス利用の拡大については課題が残っていると認識しております。

「今後の方針」でございますが、これら令和7年度の取組から得られた成果や課題を踏まえて、区民・地域団体・事業者・関係機関との連携を一層深め、併せて多様な区民ニーズや社会状況の変化を的確に捉えて必要な支援・情報が届きやすい環境づくりを進めていきたいと考えております。

令和8年度につきましては、これら5つの目標を包含する形で、「みんなが安心・安全に暮らせるまち」「みんながいきいきと元気に住み続けられるまち」「みんながつながりさまざまな文化でにぎわうまち」の実現に向けて、特に「防犯・防災」「介

護予防」「多文化共生」等について重点的に取り組んでまいりたい次第でございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○藤木議長

ありがとうございました。

ただいまの説明について、ご意見、ご質問などある方は挙手をお願いします。

発言の際には、初めにお名前をおっしゃってください。発言ございませんか。

発言ないようですので、それでは事務局から、「西淀川区版“すかい”プロジェクト（働く・貯筋・歩く）」の紹介をお願いします。

○横内課長

ありがとうございます。また議事の最後になりましたら質問をまとめてお受けしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今年度の取組でございます。介護予防に向けまして、こちらの資料2というところの資料を説明させていただきます。

こちら、「介護予防をもっと身近に！“すかい”プロジェクト」ということで、西淀川版としまして「働く・貯筋・歩く」、この3つを介護予防のキーワードとして取り組んでおります。

資料2の1ページ目左下に書いてありますが、「元気な今こそ、介護予防の始めどき。いつまでも自分らしく、いきいきと暮らすために、できることから始めてみませんか？」ということで、大阪市でも全市的なプロジェクトを立ち上げて取り組んでいる事業でございます。

続きまして、2ページでございます。

大阪市が進める介護予防の取組を、西淀川区がさらに充実させます。「～『す』こやかに『か』いご予防で『い』い人生～」ということで「“すかい”プロジェクト」ということで取り組んでおります。元気なうちから介護予防に取り組み、高齢者が自立していきいき暮らし続けられるよう支援する取組でございます。

なぜ今、介護予防が大切なのかということでございますが、1つは高齢化が進み介護が必要な人が増えています。右上に括弧書きで書いておりますが、西淀川区では要介護認定率が令和4年3月31日時点で23.3%であったものが、令和8年3月31日時点で26.4%と4年間で3.1ポイント増加しております。令和8年3月31日の全国平均は20.2%、大阪市全体で28.6%のため全国平均より高く、大阪市全体よりは低い水準となっておりますが課題として認識しております。

「要介護認定」の説明ですが、介護保険サービスを利用するために必要な認定制度で、「自立」、「要支援1・2」、「要介護1～5」の8段階に分類され、市町村が調査・判定しております。

これらの現状を早めの予防で健康寿命、元気な期間を延ばすと。そのために運動・社会参加・外出が介護予防に大きく効果的であるということで位置づけております。

3ページにまいります。これら取組を西淀川区としてはフロンランナーとして取り組むということで、「働く―社会参加・役割づくり」というところで、地域での活動や役割を通じて、人とつながり外出・会話を増やすという取組を進めております。運動だけではなく、人と関わり役割を持つ「社会参加」は介護予防の大切な柱となっております。自分の経験や得意なことを地域で生かすことで外出や会話のきっかけが生まれ、先だって「西淀川区役所内の日常業務」の中から仕事の切り出し、「働く」を生み出していきます。

右の写真でございますが、昨年度の区民駅伝大会で記憶も新しいと思いますが、大阪府の高齢者大学校のカメラマンの方々も来ていただきまして、選手の笑顔や交流の瞬間を撮影しました。広報紙にも載せさせていただきましたが、これは我々職員ではなかなか撮影できないようないいカットを撮っていただきましたので、これからも連携してやっていきたいというふうに思っております。これら具体的な取組として広報力の強化としてカメラマンの活用、もしくは区庁舎などでも生け花の装飾などで働くということで社会参画を促していきたいというふうに思っております。

続きまして、「貯筋」でございます。

「筋力づくり・習慣化」ということで、日々の運動を続けるための仕組みで「貯筋通帳」というのを発行しております。後ほど詳しくご説明いたしますが、「筋力づくり」については、まず日常生活を支える土台は筋肉、フレイル（虚弱）を予防して、自立して生活できる期間（健康寿命）を延ばしていきます。楽しみながら体を動かして、いきいきとした毎日を過ごしてみませんか？

「貯筋通帳」とは？ということで、「に～よん貯筋通帳」で日々の活動を記録し、ご自身の健康づくりに役立てていきます。また、実施した筋トレや歩数、イベント参加に応じた「に～えん（ポイント）」を貯めて景品と交換するというような取組を行っております。

続きまして5ページ目、「歩く」でございます。

「外出・移動を増やす」、身近な「歩く」を増やして体力維持と生活の広がりにつなげていきたい。歩くことでこんな効果が、ということで「体力や筋力の維持」、足腰を使うことで転倒予防にも繋がります。「認知症予防」ということで、外出・会話・刺激が脳を活性化させる。「気分転換・前向き」な気持ちは太陽を浴びることで気持ちも明るく元気になっていく。あと「地域とのつながり」で、散歩途中の出会いがコミュニティを育てていく。これらの取組を通じて、西淀川では大野川緑陰道路ということで歩行と自転車道専用の全長約3.8キロの道路があります。こちらを管理している建設局と連携して「歩きたくなるまちづくり」を推進するために、区民の皆様から「に～よん基金」ということで区政推進基金をさらに充実させていきたいというふうに考えております。

最後のページになりますが、「“すかい”プロジェクト3つの取組み まとめ」ということで、元気のうちから備える。それが「自分らしく生きる」ための第一歩であると考えております。

1つは「働く」、社会参加・役割づくり。地域イベントや活動に参加。自分の経験

や特技を地域で生かす。人とつながり、会話・外出を増やす。事例としまして、区民駅伝でのカメラマン、区庁舎内での生け花の装飾。

真ん中の2「貯筋」、筋力づくり・習慣化。毎日の筋トレ・運動を記録する。「貯筋通帳」でポイントを貯める。フレイル予防・健康寿命を延ばす。こちら受取場所として、区役所とか区社会福祉協議会、地域包括支援センター、老人福祉センターなどで配布しております。

3つ目について「歩く」、外出・移動を増やすということで、区の宝でありますこの「大野川緑陰道路」を活用していく、「歩きたくなるまちづくり」を推進する、体力・認知症予防・地域とのつながりをつくる、これらの3つを目的としまして、関係部局と協議を進めながら「に～よん基金」で歩きやすい環境を整備していこうというふうに思っております。

説明は以上でございます。

引き続きまして、資料3でございます。

「貯筋」につきまして説明させていただきますので、永石主幹どうぞよろしくお願い致します。

○永石主幹

「貯筋」について説明いたします。資料の3-1をご覧ください。

「西淀川区版すかいプロジェクト」は、令和8年4月から始動しています。

2枚目をご覧ください。

この3つの柱の1つが「貯筋」です。主な取組として、「に～よん貯筋通帳」の活用、「に～よん貯筋教室」の開催、健康維持の視点でもウォーキングイベントを企画しています。

3枚目をご覧ください。

「に～よん貯筋通帳」は、健康的な生活習慣を確立してフレイル予防・健康寿命を延ばすことを目的に作成しました。歩数や筋トレ・生活・食事・運動等の記録と、対

象イベントへの参加に応じて「に～えん（ポイント）」が貯まります。

4枚目は利用の流れになっておりますので、またご覧ください。

5枚目に移ります。

貯筋通帳の配布対象は、西淀川区在住の40歳以上の方です。区役所以外に、老人福祉センター、社会福祉協議会（ふくふく）、南西部地域包括支援センターで配布をしています。

手帳には、6枚目にあるとおり、左側に日々の記録、右側にイベント参加記録、シールを貼っていただけるようになっています。

7枚目、筋トレ運動の実施や、40歳から64歳の方は8,000歩、65歳以上の方は6,000歩の目標歩数を達成された場合は「○」印を記入していただきます。

8枚目、イベント参加時にシールをお渡ししますので、日付を記入してシールを貼ります。

9枚目をご覧ください。

毎日の筋トレで「1に～えん」。1日の目標歩数の達成や対象イベントへの参加はおのこの「10に～えん」とし、1か月間に「200に～えん」を貯めると区役所保健福祉課の健康推進のグループの窓口で景品と交換しています。交換時には取り組まれているお話を伺い、継続いただけるよう声かけを行っています。

資料3-2になりますが、こちらは6月の広報紙に掲載した対象イベントの記事です。偶数月の24日の「に～よんデイ」に行っている「に～よん健康体操」など、「すかいプロジェクト」のマークをつけて案内しています。掲載イベント以外にも、いきいき百歳体操やその体験会、奇数月の24日、休日の場合は25日に行っています。「に～よん貯筋教室」などがございます。

登録イベントへの参加者は65歳以上、女性の方が多い傾向にあります。あらゆる年代、より多くの方にご参加いただけるようなイベントの登録や、今後予定しておりますウォーキングイベントの充実、そして継続して参加いただける関係づくりに取り組

んでまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○横内課長

お時間いただきましてすみません。

引き続きまして、資料4でございます。「歩く」編ということで、こちらを説明します。

めくっていただきまして、「歩く」の効果・目的でございます。

「フレイル予防・回復」、歩くことでフレイルの予防、さらにはフレイルからの回復が見込まれ、足腰の筋力維持にも効果的です。あと「認知機能の維持」ということで、有酸素運動には認知機能の低下を予防する効果があります。一定歩数以上歩くことで死亡リスクの低減が期待されます。「社会参加・交流」、外出することで人との交流が増え、認知症や要介護リスクの低減につながる。地域とのつながりが健康を支えていきます。

「現状の取組」という資料でございますが、めくっていただきまして、「健康いきいき展 ウォーキングイベント」。開催時期は毎年秋頃に開催される「健康いきいき展」にて、大野川緑陰道路を舞台にウォーキングイベントを実施しています。

「コース・特典」ですが、理学療法士が同行し、緑陰道路をウォーキング、ゴール地点で到着した参加者にはお花をプレゼント。こちらは7年度に開催させていただいた広報紙に掲載した内容でございますが、西淀川区役所から緑陰道路で西淀公園前をゴールとしまして、ゴールにはお花のプレゼントコーナーなど、一緒に理学療法士が歩いていただくなどの工夫を行いました。右に書いておりますが、参加者へのうれしいポイントとして、理学療法士と一緒に歩ける。ゴールに達成感とプレゼントをご用意する。大野川の自然を楽しみながら健康促進という取組をしております。

2つ目でございます。「大野川緑陰道路」でございますが、ウォーキングマップを公開中です。「見どころガイド付きマップ」ということで、緑陰道路の各地点の見どころを分かりやすく紹介し、歩くルートをより楽しく意義あるものとしております。

「安心して歩けるルート案内」ということで、視覚的にも分かりやすい図に加え、各地点からの距離を記載し、ウォーキングの際の目安としております。「気軽に・楽しく・安心して」歩きたくなるまちづくりを推進してまいります。

3つ目でございます。昨年、「区制100周年」を迎えました。区民ハイキングとして「にしよどまちめぐり」を行いまして、「まちを巡る」ということで区内の歴史的建造物・文化施設など魅力的なスポットを徒歩で歩くコースを設定し、各チェックポイントではスタンプラリーとクイズを実施しながら、楽しみながら地域の歴史・文化を学びました。景品としまして、一定数のチェックポイント達成で参加賞を贈呈し、ゴール地点ではお楽しみイベントも開催しました。区制100周年で、「に～よん」の立体ラバーキーホルダーをつくらせていただきましたので、こちらをお渡しいたしました。

「今後の取組」になりますが、「大野川緑陰道路の整備計画（案）」ということで、関係各所と調整中の内容でございます。主に建設局と話をするのですが、「ベンチの設置」ということで、緑陰道路内にはベンチなどもあるのですが、もっと気軽にランニング中とかウォーキング中に立ち寄れる休憩スポットがあれば無理なく続けられる環境づくりができるのではないかと。あと「フットライト」ということで、夜間に暗くなる場所へちょっとしたフットライトを設けて安全性と視認性を向上し、夏の猛暑に夕暮れ以降も安心して歩けるようにしたらよいのではないかと。あと「案内看板の設置」ということで、各緑陰道路の出口などに、主に回遊性を、緑陰道路から少し出ていただいて区全体を回遊していろんな楽しいことをしていただくというような仕組みづくりを考えているのですが、そういったところで史跡案内などをするような看板を設置すればいいのではないかとということで検討しております。

これらの取組でございますが、これから「貯筋」と「歩く」に分かれてグループワークをしていただくのですが、ヒントとして参考にしていただければというふうに思っております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○藤木議長

ありがとうございました。

ただいまの説明について、ご意見、ご質問などある方は挙手をお願いします。ご発言の際には初めにお名前をおっしゃってください。

意見ないですか。直接、横内課長にどんどん質問。岡本委員どうですか。

○岡本委員

西淀川区スポーツ推進会長の岡本です。よろしくお願いいたします。

この「すかいプロジェクト」ですけれども、私自身老人福祉センターのほうに勤めておりまして、この「貯筋通帳」というようなもののお話の件でいろいろとびっくりすることがありまして、実はこの「貯筋通帳」を始める際に、私ども区役所のほうから協力をいただきたいということでお話がありました。その協力をするに対しては別にいいのですけれども、スタートしたものの、こういうときはどうなる、こんなときはどうなるということが全然と決まっていなかった。例えば「貯筋通帳」の中のイベントはどんなものがあるのかというのでもQRコードで示すような形の中身だったのです。ただ老人福祉センターは60歳以上の方が来られるところですので、基本そのQRコードを使ってということができるよう年齢の方々ではない。やはりこの「貯筋通帳」をどうして使うのとか、そういうふうなことをいっぱいご質問いただきまして、私たちもどう答えていいかわからないような状況の中でスタートになっておりました。ですので、このQRコードを見ていただいたらいいですよと言われても、どうやって見るのということになります。なかなか今スマホの使い方がわからない高齢者がいるのにも関わらず、QRコードでイベント内容を見るというような状態では、どんなときに参加していいのかわからないというふうに高齢者の方々からもご意見がございました。それに対して私たちも答えていかなければいけなかったものですから、区役所のほうに問合せさせていただきまして、こういうふうなご質問があると

きどうすればいいのかと。実質、そのイベントも中身も、まだ完璧なものではなかったのです。ですので、老人福祉センターでやっているこういうイベントに参加すれば「に～えん」の点数がもらえとか、そういうのもまだはっきり決まっていなかったような状況の中でのスタートでしたから、これはいかがなものかなと。私らも一緒になって推進していかなくちゃいけないのにも関わらず、最初にこういうことがあったということで、私自身まだ老人福祉センターに勤めていて、この「貯筋通帳」の件に関しては一生懸命皆様に周知している最中ですが、もう少し区役所のほうも中身がしっかりと決まってからスタートしていただきたかったというのが最初の私の意見ということです。申し訳ございません。質問だと言われたのですが、すみません。失礼しました。

○藤木議長

ありがとうございました。

説明のほうをお願いします。

○横内課長

ありがとうございます。

○永石主幹

ご意見ありがとうございます。おっしゃるように、この「に～よん貯筋通帳」を開始するときは、大々的に行うものでなく、お互いに配布いただくご予定の社協であるとか老人福祉センター、南西部の地域包括支援センターの方とのご意見もいただきながら進めていこうというところでした。3月までに本来はきちんと決めて4月スタートをすべきじゃないかというご意見もごもっともですが、4月1日に手帳も出来上がり、その4月の1か月間をかけて調整を進めてまいりました。

先ほどご説明しましたように、登録するイベントについては柔軟に考えておりまして、どのようなイベントがふさわしいのかということも実際に各配布いただくところにも足を運ばせていただきながら調整しながら進めているところです。

一方で、いきいき百歳体操の会場については当初から登録イベントとしてシールをお渡ししようということで、こちらに来ていただいている方については、具体的に通帳の使い方であるとかイベントのことも、ここの会場に来ていただいたら「10に～えん」貯まりますよというような説明をさせていただいてきました。4月になりまして、4月の第1回目の「に～よん」の日に、「に～よん体操」とともにこの「に～よん貯筋通帳」の使い方のご説明をさせていただきまして、そこである程度お伝えができたのではないかと考えております。

QRコードが活用しにくいとのご意見もいただいたところですが、ホームページに掲載させていただいています。先ほどご説明させていただきましたように多くの方が情報を集められる広報紙への掲載も毎月のようにさせていただいて周知に努めさせていただいているところです。センタースタッフの方からは、一方で「に～えん」という言葉が皆さんの中から日常的に出てくるようになりましたよというようにうれしい言葉もいただいております、すごくこの「に～よん貯筋通帳」が広まってきているなというのは、4月の下旬ぐらいには感じていたところです。皆様と一緒に育てていただきたい通帳になりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○藤木議長

ありがとうございます。

岡本委員よろしいでしょうか。何かすこし分からんような感じなので。どういうところまで広がっているのですか。その手帳というのは。どういう施設というか。

○永石主幹

実際に登録イベントは、ご協力いただいているところの主催のものか、もしくは区役所が主催・共催を行わせていただいているイベントの中で、運動であるとか筋力をつけるということの効果が期待できるものということで、その都度担当と話しをさせていただいて決めさせていただいております。

今現在、先ほどの資料にございますようなイベントを登録イベントとしております。

○藤木議長

はい。

○岡本委員

すみません。座ったままでお話しさせてもらいますけれども、これ今資料の3-1ですよね。覗かせてもらいましたら「に～よん貯筋通帳について」ということでいろいろ書いてあるのですけれども、この前の百歳体操のリーダー会議でご意見があったと思うのですけれども、正直な話、この「に～よん貯筋通帳」というのは、まだまだはっきりとどんなふうにして使うのかいっぱいご質問があるのです。ただ分からないままでも今何となくスタートをして、何となく手帳をもらったから何となくシールを貼っているけど、どういうふうに使ったらいいのっていうようなものの周知物がありません。ですので、区役所はこれをもっと推進するのであれば、もう少し細かく高齢者にも分かるように文書というか、ホームページ見てくださいといわれても、ホームページを開けることすらできない高齢者もいますので、もっと周知方法をお考えになっていただければいいかななんて思っています。

これ40歳以上の方が対象になっていますけれども、実質ほとんどお使いになられる方が65歳、70代そこら辺の方々、70歳以上の方々がこの通帳をお持ちになっていらっしゃると思うのですけれども、その「に～えん（ポイント）」のつけ方というか、単純に200ポイント貯まったら景品に交換だとか、なかなか1か月の間に200ポイント貯めるって相当大変なことなので、正直言うと、もっとそのポイント数を下げるとか年齢分けをしたらとかそういうふうな何かがない限り、70歳以上の人が200ポイントを貯めるといったら相当のことなのですよね。どれだけのイベントに参加しなきゃいけないか。それどれだけ何歩もまちの中を歩かなきゃいけないかという、それも1か月という規定ですから、1か月の範囲の中で200ポイントって、高齢者はなかなか貯めることは無理だと思います。だからそういったレベルみたいなものも、もっと年齢分けをしたらとか何かもうちょっと工夫をされるほうがいいのじゃないかなと推進していった

いる人間がそう感じますので、もう少しいろんなことに対して周知の方法を考えると、中身のポイント数の年齢分けとかそういうことを具体的に早く進めないと、このままではほんとに、ただもう高齢者さんたちはイベントに来てシールもらったから貼ります、それで終わっているような状態で、景品なんかにはなかなか換えていくことの楽しみなんかも感じることはないだろうと、私はそう考えますので、もう少しそこから辺、区役所のほうも考えていただけたらなと思っております。

○藤木議長

ありがとうございました。説明よろしいですか。

ほかにございませんか。

○河野委員

河野と申します。

「貯筋通帳」に不勉強で申し訳ないのですが、この1か月の間に「200に～えん」を貯めると窓口で景品と交換できますということなのですが、例えば毎日8,000歩歩いて毎月200貯まった場合というのは、何度でも景品交換できるものなのでしょうか。

あと景品というのは、どういった物をご用意されているのでしょうか。やっぱり興味、皆さんのやる気にも関わってくると思いますので、同じ物がたくさん用意できないとかもあるかと思うのですが、何か目安があると目標になりやすいのかなと思いました。

あともう1点、私は個人的に楽団をやっているのですが、この「に～えん（ポイント）」の貯まるイベントを開催するというか、「に～えん（ポイント）」の対象になるようなイベントに認めていただくようなことはできるのでしょうか。それはどちらにご相談し、申請させていただいたらそれは可能なのか。区役所主催のイベントだけでしかないのか、それは今大体1か月間にどれぐらい何回ぐらい何件ぐらいのイベントを開催されているのか、たくさんの質問をすみません。よろしくお願いし

ます。

○永石主幹

ありがとうございます。

景品につきましては企業の方からご協力をいただいて商品を出していただいているのですけれども、小さなパックのジュースであったりとかそういった物になります。

イベントに関しましては、こちらの区役所等での主催であったとしても、座って講演を聞いていただくだけでは駄目で、運動とか体力づくり、健康づくりにつながるようなものというふうに考えておりますので、まずは主催や共催のところで楽団の皆さんにご参加をいただいて、一緒に運動というか体を動かしながら音楽を楽しむとかそういうような企画の中でご一緒できる場所があれば、イベントとしての登録も可能かと思っております。

歩数のほうが「10に～えん」イベントも「10に～えん」で、あとご自身で運動等の記録を書いていたいただいたら「1に～えん」貯まるということですので、大体月の半分ぐらい6,000歩以上、65歳以上の方に歩いていただいて、イベントに週1回通っていただくぐらいが「200に～えん」の目標ポイント達成の目安と思います。毎月のように来ていただいている方は、かなりご高齢の方でも歩数を達成されていまして、何回でも毎月毎月来ていただいております。今この通帳は1,000冊以上発行させていただいたところになります。

○藤木議長

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。ほかに。

はい。西垣委員。

○西垣委員

青少年指導員の西垣です。よろしくお願いします。

私もこれちょっと初めてというかなかなか勉強不足でよく分からないなということこ

ろがあるのですけれども、これは今どれぐらいの部数を配ってあるのかと、どれぐらいの部数を目標にしているかというところをお聞きしたいなというのと、私も医療福祉関係で働いているのですけれども、あまり目標が高過ぎるとすごく頑張り過ぎてしまって、やっぱりお膝を痛める方がいたりとか、無理に出かけようとしてしまってやっぱり家族さん心配されるのかなとか、目標を高くするのも、若い私たちだったらちょっと高く目標を設定してもいいのかなとは思っているのですけれども、高過ぎるのもやっぱり体力とか不安な方たち、その体力をつけるためのものなのですから、ちょっと頑張り過ぎちゃう人がいないのかなと少し心配になるところもあります。さっき言わせてもらったみたいに部数目標にしているのかなというところが分かった上で、いろいろ話とかいろんなことをグループ討議したほうが目標というか具体的な話ができるのかなと少し思ったので、そこを教えていただけたらありがたいです。

○永石主幹

「に～よん貯筋通帳」そのものは、まずお手元に届けたいということで発行数の目標だったのですけれども、実は700冊がまず目標というふうに考えておりまして、先ほどお伝えしたように、現時点で1,100冊に近い冊数が出ているということで、当初思っていたよりも皆様をご希望されてお手に取りたいと思っていただけたのではないかと思います。

目標の数値ですけれども、歩数が65歳未満の方が8,000歩以上で、65歳以上の方に6,000歩というところはあるのですけれども、「健康日本21」の第三次の目標、2024年からを考えると、そのときの全体の平均の歩数が6,300歩ほどでした。男女なく、それぞれの年齢で。大阪府では「プラス10」、10分間余分に動きませんかという呼びかけもしています。国の「健康づくりのための身体活動運動ガイド」にも65歳未満は8,000歩、65歳以上は6,000歩をめざしましょうというのがあります。その歩数を意識していただくという意味も含めまして、「に～よん貯筋通帳」の歩数も設定しております。

○藤木議長

ありがとうございます。

西垣委員、よろしいでしょうか。

はい。それでは結構ご意見も出ましたので、あとはグループ討議のほうでお願いしたいなと思います。ありがとうございました。

それでは、事務局からグループ討議について、進行のほうをお願いいたします。

○横内課長

ありがとうございます。いただいた意見、非常に参考になります。

こちらのお手元のシートを配っているのですが、資料6と7というのがあります。手前の2つの班は「貯筋」をメインにお話ししていただこうかなと。残りの班は「歩く」というテーマでと思っております。

この資料6ですが、こちらは「貯筋」ということで、左のほうに「きっかけ」「ひろがり」「継続」と、もう既に今ご意見が出ましたように質問が多いということが、もうやっぱり既に取り組んでいるということでもちょうどいいテーマなんですけど、どうやったら先ほどみたいにハードルを下げられるかや広がりを持てるか、あとは2つ目の質問でありましたように継続というのは非常にキーになっておりますので、こういうテーマで考えていって前向きな発表ということにつなげたいというふうに思っております。

「歩く」のほうでございますが、こちらは今から取り組んでいくという中長期のお話になりますので、まずは今現実・理想とギャップのところなんかを認識していただいて、それをまず解決して何ができるかというような少し考え方が違うような、そういったテーマになっております。

こちらの資料5ですが、毎度グループ討議していただくときのルールとしまして、まずそれぞれのワークシートにご自身の意見を書いていただきまして、付箋で模造紙に貼って考えを発表していただいて、まずグループ内で1人2分ぐらいでご自身の意

見を発表していただきたいと思います。と思っています。

それからファシリテーターの方、非常に重要な役割になりますが、柔軟な意見を引き出していただきまして、付箋の使い方であるとか、あと発表に向けたまとめ役というのをやっていただきたいと思いますというふうにと思っています。

最後、グループごとに3分程度で発表していただいて、それからまた全体でこの班の意見はよかったですとか、そういう意見同士で話をしていただくというようなことで考えております。

時間配分については私のほうで時々進行させていただきますが、ちょっと押しておきますので前向きな感じでやっていただければと思っています。

それから、多角的な視点で検討するため自由な発想でご意見をお願いします。他者の意見に対する批判とか否定はお控えいただきたいと思います。発言は端的にお願いいただきたいと思います。記入いただいた付箋はそのままにしてくださいというふうにしています。

それではまた恒例ですが、区役所の職員の方々にもテーブルのほうに移っていただきまして、まずはシートに記入ということでやっていただきたいと思いますので、どうぞご意見をよろしくお願いいたします。

ご質問は適宜、入っていただいている課長とか主幹を呼んでいただければコメントをさせていただきます。私のほうでもご回答させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それではお願いします。

(ワークシート記入)

○横内課長

ワークシートですね、皆さんも大体記入できましたが、ファシリテーターの方、付箋のとおりでアイデア出しといいますか、少しずつ始めていっていただきたいと思いますというふうにしていますので、よろしくお願いします。

(グループワーク)

○横内課長

皆さん、模造紙を活用しながらやっているといると思うのですが、できるだけグループの皆さんが発言できるような感じでやっていただければなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

皆さん、今回活発な意見が出やすいテーマかなと思いますので、できるだけ参加していただいている方にご意見いただきまして、あと10分ぐらいでグループとしての意見をまとめにかかっていただければなと思っております。シートのほうも分かりやすくなっていますので活用いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

活発な議論ありがとうございます。分からないことがありましたら区役所の職員なり私なりに聞いていただければと思います。8時10分ぐらいにグループとしてのご意見をまとめていただければなと思っておりますので、またそんな段取りでよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。活発なご意見していただいていると思いますので、あと5分ぐらいでグループのご意見をまとめていただければありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

議論も白熱していると思うのですが、そろそろ各グループの発表にまいりたいと思います。その後、グループ同士の意見が、あの意見はよかったなというような話もしていただければなと思っておりますので、ではよろしいでしょうか。

(グループワーク終了)

○横内課長

すみません。ありがとうございます。

それでは各グループ発表ということで、どなたか早いもの勝ちで。はい、どうぞ。お願いします。

(各グループ代表者から発表)

○西垣委員

すみません、4班です。

4班は「歩く」、どうやったら皆さん歩けるようになるかなというのを話しました。やっぱり西淀川区といえ、やっぱり緑陰道路です。緑陰道路はやっぱり自然が豊かで歩きたくなる、歩いていても飽きない。やっぱりすごくいいところかなというのでお話が出ました。区内で安全に歩けるのは、やっぱり緑陰道路ぐらいかなって。

いろいろ出たのですけれども、ウォーキングイベントにもっと気軽に参加できないと習慣化できないかなとか、矢倉海岸とかも活用したり、車で矢倉海岸の近くまで行けたらもっと行きやすいのかなという意見も出たのですけれども、1つ話が出たのが、やっぱり季節ごとの映えスポットがあれば、さっきの説明の中でも案内看板の設置というのがあったのですけれども、それをもっと季節ごとで、この季節はここがいいよみたいなのがあれば目標があって歩きやすいのかなって。季節ごとで、春はここ、夏はここみたいな感じも歩いていて楽しいのかなと思いました。

あと出た意見として、ちょっと大変なのですが写真投稿サイトみたいなのを区でつくってもらって、自分のお勧めポイント、区制100周年のときに絵画写真コンクールをやったのですけど、思いも寄らないようなすてきな場所がたくさんあったので、そういうものを日常的にしてもらって、若い人が写真の撮り方を教えてもらえるイベントがあったりとか、写真スポットを作成してベンチの周囲とかポイントでやってもらったら、家族と親子と一緒に家族で歩けるような環境にもなるかなという話になりました。

ずっと家にいる人を外に出すためにどうしようかなってという話の中では、この「貯筋通帳」は一人一人なののですけれども、グループでポイントを貯められるようなのがあったら、1人で頑張るだけでなく、みんなでちょっと頑張ろうかな、足りないところは分け合おうかなみたいなそんな感じで、1人で頑張るのではなくて協力して頑張るとやっぱりやる気が出るのかなという意見が出ました。

それぐらいですかね。ありがとうございます。

(拍手)

○横内課長

ありがとうございました。

続きまして、こちらのグループもお願いします。

○巽委員

歩くつながりで、こちらのグループも「歩く」について話をさせていただきました。

まず「理想」と「現実とギャップ」と「その手法」に分けて話をしまして、まず楽しさをアピールするということでは、先ほどの班もお話ありましたが、ちょっとイベントの機会を増やしていくということであったりだとか、今現在も緑陰道路で清掃活動を地域のほうでもしていただいているかと思うのですが、それと併せたイベントをつくっていくということも1つかなと思っております。

その楽しさの「現実とギャップ」というところでは、やっぱり参加者に広がりがある少し必要かなということであったりだとか、実際その参加者と町会加入の何か連動性みたいなところ、先ほどの課題で出ていました、この関係性ももしかしたらあるのかなみたいなところも含めて、探っていけたらいいのかなという話も出ました。

そのそういう理想に近づけていくためには、やはり情報発信というところをどうしていくのかということであったりだとか、区制100周年も連動させたそういった魅力ある取組につなげていくことも必要かなという話になりました。

あと環境面なのですけども、取組に上げていたベンチの設置というところはすごくいいなという話になりました。あと、そのベンチはこういう理想はあるのですけども、現実とギャップとしたら、ベンチの管理方法であったりとか、吸い殻とかごみとかが増えないようにしていくために、そういった課題と向き合わないといけないかなという話がありまして、そのギャップを解消していくためには、憩いの場として、やはり

ベンチを置くだけではなくて、その周りを憩いの場としてのアピール等必要かなというところでもありますし、ベンチを例えば寄附を募って設置するということであれば、寄附者の名前を入れたりとかというところ、それも工夫の1つかなというところでもあります。

あと、先ほどの班も言っていた季節折々の映えポイントでもありますし、今現在も季節折々の植物が緑陰道路に豊富に咲いているのかなと思いますし、これは三宅さんからの話であったのですが、実際その植物を、こういう花がというところも教えてくれる方がおられるそうなのですね。それも毎日やっているから会話もしたりとか、そういった緑陰道路に関わる思いがある方もおられるかなと思いますので、そういった方なんかにはフォーカスを当てて、何かそういう伝えていただくことであったりとかいうところも工夫があればいいのかなというふうな話をさせていただきました。

少しハード面でいきますと、ちょっとカフェやショッピングがもう少しできる場所があればなというところも意見も出たのですが、こちらの報告のほうは以上でございます。

(拍手)

○横内課長

ありがとうございました。

引き続きまして、お願いします。

○矢口委員

こちらのグループでは「貯筋」のお話をさせていただきました。

最初に、「貯筋」のほうは大分課題があるということで、ほんとにいろいろ上げて頑張ってきたのですが、まずは「きっかけ」の共通課題としては、まずハードルを下げる。参加するためにハードルを下げる、身近にするということで、例えば地域イベント等ともう少し連携して「貯筋通帳」を広めるとか、あとそういうイベント

も増やしていく。年何回も「貯筋通帳」を知らせるイベントを増やしていく。

そもそも「貯筋通帳」なんですけれども、置く場所も今区役所とか「ふくふく」とかだけなんですけれども、もっと身近にスーパーとか薬局とかそういったところにも置くようにする。

始めるきっかけとして、筋トレ動画とか、今LINEとかも区役所のほうでされていると思うのですけれども、そういったのもので紹介して、筋トレこんなに簡単にできるんだ、自分で毎日続けられる、こんなこともあるんだというものを紹介していく。40歳以上、これ「貯筋通帳」配られるのですけれども、ぜひラインとかで「貯筋通帳」のそういうアプリ的なコーナーをつくったら若い人も参加できると思うのですね。逆にこういった紙のものは若い人って使わないので、もっと身近にするためにはLINEはどうかということです。

そのポイントとかなんですけれども、ポイント2倍デイ、広がりにも共通することなのですけれども、このポイントでやる気を広げる、継続にも広げる。ポイントを活用する、ポイントのバリエーションを増やす。例えば、ご紹介ポイントを増やすとか、あと「貯筋通帳」のこういう体操のイベントとかに子どもを連れて来たらちょっとポイントアップとか、そのポイント利用に関してポイントが貯まったら魅力的な健康グッズがもらえとか、そういうポイントの活用を広げる。ただ毎日こつこつ頑張るというのではなくて、若干ちょっとポイントアップしたぞみたいなのをやる気を広がりにつなげるというのがいいかと思います。

あと、継続としての共通課題としては、このポイントの利用の仕方を、例えば今1か月でトータルのポイントでプレゼントされているようなのですけれども、1年でのポイント達成を考える。やっぱり1か月というとちょっと短くなってしまうのでなかなかしんどかったりするので、長い目で見て1年頑張ったらこれだけ達成できたよとかいう、そういうポイントの利用の仕方もあるんじゃないかということです。

あとポイント達成者、1か月でこの目標ポイントがあって達成者にはインタビュー

動画を撮ったりする。あと広報紙とかで達成者はこの方です。こんなこと頑張りましたとかをみんなに教えてあげる。そしたら、こんなことしたらポイント達成できるのだというそういう継続のモチベーションにもつながるのじゃないかなということです。

あと、例えばその継続するためには自分の体の状態がどれだけよくなったかというのもやっぱりモチベーションにつながると思うので測定ですね。イベントに参加したら健康測定ができるとかそういうもので継続を啓発していく。大切なのはやっぱり身近なところから常に関わる人を継続してつくっていくことだと思うので、区役所さんが来てやってくれているのもそれいいとは思いますが、身近にほんとに続けていくためには、身近な人がこういう「に～よん貯筋通帳係」みたいなのをつくってイベントごとに紹介していく。そういう地域の人をつくるというのも1つ継続の大きな力じゃないかなというふうに思います。

この全部なのですけれども、どれもハードルを下げる、身近にするというのが非常に大きな課題なので、まず提案としましては周知方法をもう少し考える。男性を引き寄せるそういう魅力的な、例えばスポーツチームに、例えばこの「に～よん貯筋通帳」を活用して、勝ったらポイントをアップとか、そういうふうにすると男性も参加しやすいのじゃないか、そういう意見もありました。なので、まずほんとに参加して継続するためには大きなハードルを下げる、ポイントを利用する、地域でもそういう「貯筋通帳」に関わる人をつくる、身近にする、そういったことがほんとに大事なことだと思います。

こちらの意見は以上になります。ありがとうございます。

(拍手)

○横内課長

ありがとうございました。

お願いします。

○岩本委員

こちらのグループも「貯筋」、貯筋のワークシートについての話をさせていただきました。

そちらの班と大きく似ていることもあるのですが、まずはそちらにもありました「貯筋通帳」を使いやすくするために、やはりちょっと活動目標が高いので、例えば6,000歩歩くとかというのは非常に継続するためにはちょっとハードルが高めなので、もう少し活動目標を下げるということを考えました。

ポイントを貯めやすくするというのはそちらもあったのですが、やはり「貯筋通帳」の説明できるアドバイザーというのをつくるのが大事だと考えました。やはり今のところ「ふくふく」さんとか配布する場所が限られていますので、もう少し配布場所を増やすとか、説明できる方を増やしていくというのが大事だと思います。

私なのですが医療介護の仕事をしていまして専門なのですが、まずフレイルについての話を簡単にさせてほしいです。フレイルの予防ってここに書いてあるとおりなのですが、運動と栄養と社会的役割と言われているのです。社会的役割をつくっていくことが非常に大事になってくるのですが、今いろんな町会の役員さん、町会長とかたくさんいらっしゃると思うのです。そういう方々を巻き込んで、まず町会の役員さんにこの「貯筋通帳」を配布していくというのが一番効果的なんじゃないかと考えました。また、その町会のイベントとか業務とかなどでもポイントを配布するというのいいと考えています。

「広がり」についてなのですが、イベントの参加人数を増やすために、この町会長とか地区の役員、会長、地区町長とかの方々にもこういうイベントに参加してもらうように声かけをするというのが、またそこに口コミとかもありまして、この「貯筋の通帳」とかフレイル予防というのを広げていただくというのが非常に有効的なんじゃないかと考えました。また、民生委員の方とかにも声をかけていただいて、やはりこのフレイルの予防というふうになりますと独居の方とか老老介護の方とか今非常に多くなってきていますので、そういう方々にも声かけをしてもらうことで広がって

いくと考えます。

今回なのですけれどもいろいろ考えたことがあるのですが、この「貯筋通帳」とこのフレイル予防と健康イベントについて議論があったんですけども、私たちの班としては、例えばクリーン活動とかも運動なんですよ。今考えておられるのは、例えば「貯筋通帳」を活用する方法を考えてほしいとか、健康づくりの講座とかイベントの参加を増やしたいとかばらばらに今考えておられるのですけれど、正直言いますとフレイルとかというのを考えますと、この「貯筋通帳」も健康イベントというのも全部同じ話をされているのですよね。なので例えばこういうまちのイベントを、クリーン活動とか町会長の活動とか、それこそ子どもとかのイベントとかにもお年寄の方が参加されたら、それも運動になりますしフレイル予防になるので、そういうのも「貯筋通帳」としても全てを一緒に考えて、今ばらばらにやっているのを一緒に考えていくというのが一番効果的なんじゃないかと考えました。

また、やはりイベントに面白みがなければいけませんし、もう少し参加しやすいように、ラジオ体操みたいなやつでもほんとにポイントをあげるとかですね、そういうのも健康維持のためになると思いますので。

ちょっと最後分からなくなりましたが以上です。ありがとうございました。

(拍手)

○横内課長

どうもありがとうございました。

それではここで、皆さん各グループいろいろ意見出していただいたのですが、全体の意見交換に移りたいと思います。

○藤木議長

ありがとうございました。

それでは、他のグループの発表も踏まえて、「貯筋」・「歩く」についてご意見ある方、挙手をお願いしたいなと思います。

例えばこっち側のチームは「貯筋」、向こうが「歩く」ですので、その話を聞いて
いただいて、また違う意見もあると思いますので、ご意見よろしくお願いします。

はい。岡本委員。

○岡本委員

意見と申しましょうか、実は私実家が此花区なので、此花区の川を埋めていろんな
遊歩道みたいなことになっているのですけれども、そこにモニュメント、例えば万博
のときのミャクミャクのモニュメントが置いてあったりとか、「KONOHANA」と白いモ
ニュメントが置いてあったり、その前で皆さん若い子が写真撮っているんですよ。
外国の方もいらっしゃったりしたら、そこで写真を撮っていたりとかもしています。
ですので西淀川も、ぜひ緑陰道路を歩くにおいて何か楽しみ、皆さん先ほどもご意見
があったように、やっぱり歩いていても何か面白みのあるようなものを頑張って、西
淀でも西淀川でもいいですから何かそういうふうなものを置いていって、モニュメン
トを置いたりしてちょっと写真スポットみたいな、先ほどもおっしゃっていたのです
けれどもそういうのもあったほうが、もっとこれからの若い人たちにも緑陰道路の利
用とかそういうものに関わってきて、そこへ行くために歩いていくという、健康にも
つながるというような形でいいのじゃないかなと。よその区のやっていることだった
のであれなのですけれども、でも私たちもそこで楽しませてもらっているというのが現
状ですので、西淀川区もぜひ、西淀川という何かモニュメントがあれば、みんなそこ
で写真撮ったりして遊んだりするのじゃないかななんて思っております。

○藤木議長

ありがとうございました。

ほかにございませんか。

はい。西垣委員。

○西垣委員

いろいろお話を聞いていて思ったのは、やっぱりどうしても区のことは区だけで頑

張ろうというか区役所で頑張ろうみたいなのところがあると思うのですが、やっぱり企業さんも西淀川区はすごく多くて、日中の人口というのはすごく多いのかなと思うので、もっと企業さんとコラボして、こういう「貯筋通帳」とかもいろんな企業さんとコラボしたりとか区内の病院とかとコラボしたりとか、そうやって区と企業さんが努力することでもっといろんな意見も出て、もっと現実味があって、すごくいい取組になるのかなと。区だけで、やっぱりこういう健康に関わることって区だけで考えてもやっぱり難しいと思うのです。それはやっぱり病院であったりとかデイサービスであったりとか、そういう区内の企業さんと情報を取りつつというか協力しあって、区内の高齢者の要介護度が進まないように取り組んでいくということがやっぱり一番。準備は大変だと思うのですが一番近道ではないのかなと思います。やっぱり私たちには考えつかないようないろんなご意見は企業さん持っているのかなと思うので、やっぱりそういうところと関わることで区内に住んでくれる人が多くなったりだとか子どもたちが戻ってきてくれるみたいな、どんどん西淀川区が活性する、これ1つの目標だけじゃなくて、その付加価値というのをもうちょっといろいろ考えていけるような取組にさせていただけたらいいかなと今回思いました。

ありがとうございます。

○藤木議長

ありがとうございました。

ほかにございませんか。

大分時間も押してきておりますので、ありがとうございました。

それでは、事務局から次の議題の説明のほうをお願いしたいと思います。

○横内課長

どうもありがとうございました。

本日は、口頭だけのご説明にさせていただきます。

昨年度、委員の皆様には4回の多文化共生のワークショップをしていただきました。

その意見の中で、やっぱり区の中でキーマンになる方を集めて一度ワークショップをして、外国人住民から伝えたいこと、区役所とかで住民課、地域から伝えたいような話をしようということで先週金曜日に開催させていただいております。昨年度時間をかけて取り組んでいただきましたので、今年時間を取りまして、また実行になればご説明させていただきたいというふうに思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございます。

○藤木議長

ありがとうございました。

それでは、ご出席いただいております区選出の市会議員の皆様から、これまでの議論を踏まえてご意見等いただければと思っております。よろしくお願いします。

では、市会議員の佐々木委員、よろしくお願いします。

○佐々木議員

皆さん、今日はいろんな多様な意見をいただきまして本当にありがとうございます。ご苦労さまです。

私も実は、大阪市は介護保険料が日本一高いという、それが今すごい話題になったかと思うのですが、今年も日本一で。やっぱりどうやったらそれを抑えられるかなというので、実は議員でプロジェクトチームをつくってしまして、私そこでもいろいろ勉強させてもらっていたんですけども、実はそのときにすごいお世話になったのが永石課長だという。西淀川に来られたのですかという感じなのですけど、いろんなそういうのでも詳しい課長さんなのすごいいい機会だなんて思っています。

いろんな手法があるのですけれども、大阪府の中で介護保険料を唯一下げた市がありまして、それは大東市なのですけども、その今の市長さんが課長時代にもものすごい丁寧な取組をやって、それを実現させたのですけども、やっぱりそれって介護保険料を使わずに、ヘルパーさん使わずにそれを地域の資源で生かしていこうというのが中心だったんですね。そんないろいろ研究する中で、やっぱり大阪市でまずできるこ

とって介護予防だよねということで、じゃあどういう取組をするかという話の中で生まれたのが、この実は「すかいプロジェクト」なんです。席のどこからずっと見ていたのですが、それも結局具体的にじゃあどうするっていうことは、その地域でどこまでそれを主体的に取り組んでいけるかというところだと思うのですね。市長はいつも会見しますから、僕はまずは市長に、今大阪市って全国で介護保険料もう一番高いといって、そのワーストだと言われているから、それを逆手に取って、大阪市はもう日本で1位、健康寿命日本一を目指しますと言ってくれと、そんなことを言っていて、市長もそれらしいことは言うているのですが、あんまりはっきり言わないので、あんまり印象がないという話なのですが、でもこれってすごい皆さんの意識づけが大事やと思うんですね。だから広報が物すごく大事で、だから西淀川はこうやって「貯筋通帳」の取組始めますといって、永石課長にお伺いして、ああ、すごいですねと言っていたのですが、でもこれってどれだけたくさんの人が知っていて意識を持って、じゃあ何のためにというところが、そういう目的意識をちゃんと持ってもらえるのが大事なので、だからその「貯筋通帳」のためにやるんじゃないですよ。健康寿命をいかに延ばしていくかということなので、それをみんなで励まし合ってやっていきましょうという、その意識をみんなで持っているような、そんな中でじゃあどうやったらこれ広がるかなというのが大事かなって思います。誰しも元気で長生きするにも健康でいるっていうのがみんな幸せやと思うので、それをみんなで共有できるような、そんなまちにこれを通じて意識づけができるようになったらほんとにいいなというふうに思いますので、今日いろいろご意見言っていたのを聞いてものすごく勉強になりました。おお、なるほどみたいなね。例えば「貯筋通帳」を5人に紹介したらポイントとかね、また地域のいろんなイベントもこれに絡めていったらどうかとかね。スポーツやっている団体なんか、僕も地域のゲートボールなんかもよく行かせてもらうのですが、今日、小久保さんいらっしゃっていますけど、あんなのもどんどんそうやって高齢者の方が参加してもらったら、それだけですごい大きな

取組になっていくのじゃないかなっていうふうに思ったりとか、そういう知恵もどんどん生かしながら、この「貯筋通帳」を通じていい取組が広がったらいいなというふうに思います。今後とも、どうぞよろしくお願いします。

今日はどうもありがとうございました。

○藤木議長

ありがとうございました。

続いて、清水委員はもう帰られました。

それでは、山田議員より事務局のほうへ伝言をいただいておりますので、事務局からよろしくお願いします。

○横内課長

山田かな議員からのご伝言です。

こんばんは。市会議員の山田です。今日はお忙しい中、遅い時間までお疲れさまでした。今日は今年度最初の区政会議にぜひ参加したいと思っておりましたが調整がつかず、やむなく欠席させていただきました。申し訳ございません。

今回の国勢調査で西淀川区人口が1,200名ほど増加していると情報をいただきました。単身者が多くいらっしゃる聞いております。

西淀川区の防災力が強化され、区民の皆様が安心して安全に生活していただくためには、人と人とのつながりが不可欠であると私は考えています。これからも皆さんと一緒に西淀川区の住みよいまちづくりに貢献してまいりたい所存ですので、どうぞよろしくお願いしますということを預かっております。

以上です。

○藤木議長

ありがとうございました。

それでは続きまして、副区長より、本日の会議に関して総括のコメントをよろしくお願いします。

○楯川副区長

本日は、本年度8年度の第1回目の区政会議ということで、皆さんお疲れのところ、遅くまでいろいろご議論いただきましてありがとうございました。

「西淀川版すかいプロジェクト」の「働く・貯筋・歩く」という3つのテーマがありますが、本日は「貯筋」と「歩く」ということでご議論いただきました。

「貯筋」のほうでは、配布場所を増やしてはどうかとか、あとポイントを活用してはどうかとか、あとは地域で関わる人をつくる、あるいは説明するアドバイザーのような人を設けるとか、町会長の関わりであるとか民生委員さんの関わりであるとかというのが広がるきっかけになるのじゃないかということでした。

あとは6,000歩という基準についても、ちょっと厳しいのではないかといったご意見もございました。歩くというところでは、やっぱり緑陰道路ですね。自然豊かな飽きがこない緑陰道路ということで、その中でも写真映えするようなスポット、季節ごとの目標スポットみたいなのを設定などをつくり出してはどうかということでした。

あと、カフェやショッピングする場所というのもありましたけど、ちょうど私の話で恐縮なのですが、役所に入る前の会社で営業で回っていたときに、靱公園がございましたね。あそこって公園の緑のすぐ横にビルが建っているのですが、そのビルの1階に喫茶店がありまして、その靱公園の緑を借景にというか見ながらお茶を飲める場所があって、よくそこで休憩していた記憶がよみがえってきまして、それはせっかくの緑、自然、きれいな風景というのがあるので、そういうのを借景に活用しながら何かゆっくりできる場所、道路なので何かつくってというのは難しいかもしれませんが、今いろんな施設整備の手法があるかと思いますので、そんなものも何か広がりとしてやっていけたらいいのかなというふうに思いました。

本日いろいろいただいた意見につきましては、今後区役所内でも議論を深めまして、来年度事業で予算が必要だというものがございましたら、活用させていただきたいと思います。

次、また後で案内があると思うのですが、次回は最後に残っています「働く」というテーマについてグループ討議していただく予定にしておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

○藤木議長

ありがとうございました。

それでは「その他」、事務局から案内のほう、よろしくお願いします。

○横内課長

ご案内です。次回の区政会議でございますが、9月15日火曜日、18時30分から予定をしております。

委員の皆様、本日いただいたご意見を事務局で整理させていただいた上で、皆様がいきいきと元気に住み続けられるまちの実現に向け、課題の設定案、具体的な施策、取組についてご議論いただきます。よろしくお願いいたします。

○藤木議長

それでは最後に、副議長から感想とまとめをよろしくお願いします。

○矢口副議長

本日は活発な意見ありがとうございました。本日は「貯筋・歩く」、それぞれの取組をどうすればもっと皆さんに届くのか、たくさんヒントをいただいたと思います。

本日の議論は「すかいプロジェクト」を動かすための大きな一歩になったと思います。アイデアを形にして、成果にしてつなげていきたいと思います。引き続きお力を借りながら健康づくり進めてまいりましょう。

本日はありがとうございました。

○藤木議長

皆さん、ありがとうございました。滞りなく議事が進行しましたことをお礼申し上げます。本日はこれにて閉会します。

長時間にわたり、熱心にご議論いただきありがとうございました。

○横内課長

どうもありがとうございました。